

【日本経済調査資料シリーズ8】

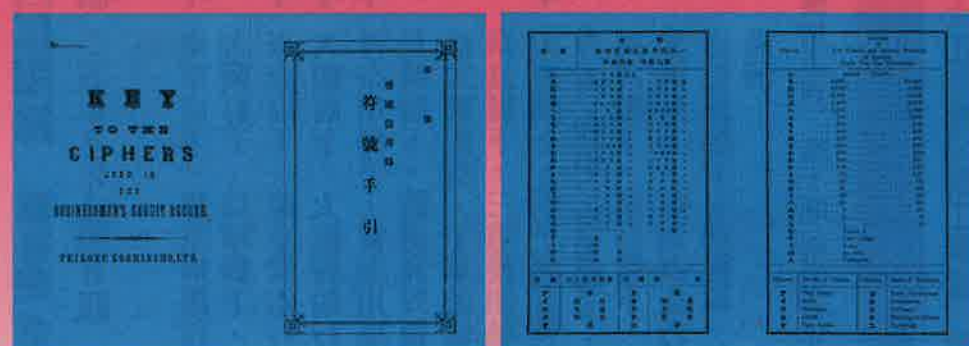
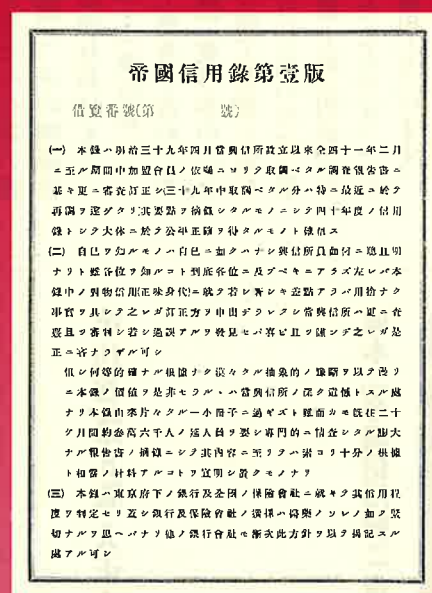
明治大正期 帝国信用録

THE BUSINESS-MEN'S CREDIT RECORD

第Ⅲ期 第2回配本 明治41年/大正4年 全5巻

●体裁：B5判・上製 約3,300頁 ISBN978-4-910672-45-8 C3333

●定価：本体165,000円+税



明治40年代初期、大正前期の東京府・神奈川・大阪・兵庫をはじめ、各府県、旧植民地の商業工者、銀行・保険会社の営業状態や資産・信用情報がわかる。

クロスカルチャー出版



日本経済調査資料シリーズ



【日本経済調査資料シリーズ1】世界遺産「富岡製糸場」はじめ各工場・鉱山の変遷を明らかにする基本データ集。

全国工場鉱山名簿 全3巻 在庫僅少

解説：阿部武司（大阪大学名誉教授）

●定価（84,000円+税） ●B5判・総約1800頁 底本：『全国主要工場鉱山名簿』ほか。

ISBN978-4-9905091-0-1 C3333

【日本経済調査資料シリーズ2】米国司法省戦時経済局が押収した米日本商社資料を集めた貴重な資料。

米国司法省戦時経済局対日調査資料集 全5巻 在庫僅少

編集・解説：三輪宗弘（九州大学教授）

●定価（160,000円+税） ●B5判・総約2,500頁〈改訂版〉

ISBN978-4-908823-17-6

【日本経済調査資料シリーズ3】明治・大正期の西日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

明治大正期 商工資産信用録 第Ⅰ期 第1回配本 全6巻

ISBN978-4-905388-12-8 C3333

●定価（130,000円+税） ●B5判・総約3,800頁 底本：『商工資産信用録』（商業興信所刊 明治42年～大正元年）

明治大正期 商工資産信用録 第Ⅰ期 第2回配本 全9巻

ISBN978-4-905388-19-7 C3333

●定価（195,000円+税） ●B5判・総約5,700頁 底本：『商工資産信用録』（商業興信所刊 大正4年～大正14年）

【日本経済調査資料シリーズ4】明治・大正期の東日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

明治大正期 商工信用録 第Ⅰ期 B5判上製 底本：『商工信用録』（東京興信所刊 明治32年～大正14年）

●第1回配本（全4巻）明治32～44年 定価（100,000円+税） 総約2,600頁 ISBN978-4-905388-29-6 C3333

●第2回配本（全4巻）大正4年 定価（120,000円+税） 総約2,100頁 ISBN978-4-905388-75-3 C3333

●第3回配本（全4巻）大正7年 定価（120,000円+税） 総約2,200頁 ISBN978-4-905388-89-0 C3333

●第4回配本（全4巻）大正9年 定価（120,000円+税） 総約2,100頁 ISBN978-4-908823-00-8 C3333

●第5回配本（全4巻）大正14年 定価（120,000円+税） 総約2,000頁 ISBN978-4-908823-10-7 C3333

明治大正期の各府県商工業者の営業状態や資産信用情報が詳細にわかる。中小商工者レベルまで網羅。外国人も収録。

【日本経済調査資料シリーズ5】「長尾文庫」からの企業資料セレクション。

明解企業史研究資料集 第1回配本 旧外地企業編 全4巻

編集・解説：佐々木 淳（龍谷大学教授） ●定価（150,000円+税） ●B5判・総約3,500頁 ISBN978-4-905388-48-7 C3333

旧外地の台湾、朝鮮、満洲国、中国関内、南洋諸島の12社をセレクション。社史、事業概要・企業活動などを収めた初の資料集。

明解企業史研究資料集 第2回配本 総合商社鈴木商店関係会社編 全3巻

編集・解説：佐々木 淳（龍谷大学教授） ●定価（130,000円+税） ●B5判・総約2,700頁 ISBN978-4-905388-94-4 C3333

鈴木商店関連資料のほか、関係会社から稀少な社史（豊年製油、天満織物）、樟腦事業関連資料などを復刻。商社史だけでなく産業史・地域史研究にも役立つ資料。

明解企業史研究資料集 第3回配本 繊維産業編 全3巻

編集・解説：佐々木 淳（龍谷大学教授） ●定価（130,000円+税） ●B5判・総約2,500頁 ISBN978-4-908823-23-7 C3333

戦前期に在る産業の代表・繊維業の地域別製造業者・問屋などを網羅する稀少資料を復刻。繊維産業史研究の第一級資料!!

【日本経済調査資料シリーズ6】昭和前期の西日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

昭和前期 商工資産信用録 第Ⅱ期 B5判上製 底本：『商工資産信用録』（商業興信所 昭和6年～昭和16年）

●第1回配本（全4巻）昭和6年 定価（120,000円+税） 総約1,700頁 ISBN978-4-908823-33-6 C3333

●第2回配本（全4巻）昭和11年 定価（120,000円+税） 総約1,700頁 ISBN978-4-908823-46-6 C3333

●第3回配本（全4巻）昭和16年 定価（120,000円+税） 総約1,750頁 ISBN978-4-908823-53-4 C3333

昭和前期の各府県商工業者の営業状態や資産信用情報が詳細にわかる。中小商工者レベルまで網羅。旧植民地や外国人の情報も収録。

【日本経済調査資料シリーズ7】昭和前期の東日本を中心とした企業信用情報がわかるソース・ブック。

昭和前期 商工信用録 第Ⅱ期 B5判上製 底本：『商工信用録』（東京興信所 昭和5年～昭和15年）

●第1回配本（全4巻）昭和5年 定価（120,000円+税） 総約2,000頁 ISBN978-4-908823-80-0 C3333

●第2回配本（全4巻）昭和10年 定価（120,000円+税） 総約1,800頁 ISBN978-4-908823-66-4 C3333

●第3回配本（全4巻）昭和15年 定価（120,000円+税） 総約1,800頁 ISBN978-4-910672-01-4 C3333

昭和前期の各府県商工業者の営業状態や資産信用情報が詳細にわかる。中小レベルまで網羅。

【日本経済調査資料シリーズ8】民間会社の信用調査情報

明治大正期 帝国信用録 第Ⅲ期 B5判上製 底本：『帝国信用録』（帝国興信所 明治42年～明治45年）

●第1回配本（全4巻）明治42年/明治45年 定価（160,000円+税） 総約3,200頁 ISBN978-4-910672-19-9 C3333

旧植民地の商工業者を含めた全国レベルの商工業者と銀行や保険会社も掲載。

クロスカルチャー出版

学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6

TEL：03-5577-6707 FAX：03-5577-6708

e-mail：crocul99@sound.ocn.ne.jp

取扱書店

した第1版(明治41年4月刊)は新発見資料!!

刊行にあたって

クロスカルチャー出版編集部

小社は「日本経済調査資料シリーズ」の一環として、復刻版第1期「明治大正期 商工資産信用録」(全15巻)・「明治大正期 商工信用録」(全20巻)を刊行し、続いて第2期「昭和前期 商工資産信用録」(全12巻)・「昭和前期 商工信用録」(全12巻)を刊行しました。今回続刊の第2回配本(全5巻)を刊行します。

底本の「帝國信用録」は、民間会社が発行する商工業者や企業の情報で、健全な取引を支える貴重な判断材料として機能し、その網羅性と継続性から日本の産業経営の変遷を探るための研究材料にもなっています(帝國データバンク史料館よりMuse vol.4「興信録」)。

この信用録は、前掲の「商工資産信用録」(外地商工業者を含めた西日本を中心とした商工業者信用情報)と「商工信用録」(東日本中心とした商工業者の信用情報)とは違って、全国レベルの商工業者と銀行や保険会社も掲載されているのが特徴です。今回注目したいのは、第2回配本に幻の資料といわれている「帝國信用録」第1版(明治41年4月刊)が発見され、復刻版に第6巻として収録できたことです。これらも偏に帝國データバンク史料館のご協力の賜物と感謝申し上げます。

野の研究の更なる発展に期待したいです。今後は年1回刊行し、2026年の第4回配本で完結の予定です。

内容見本

【第6巻】【東京】

姓 名	職 業	店 舗 所 在 地	資 本	信 用	取 引	取 引
三井 八郎右衛門	三井家10代当主	三井家	100,000	100,000	100,000	100,000
三井 隆吉	三井家	三井家	100,000	100,000	100,000	100,000
三井 隆吉	三井家	三井家	100,000	100,000	100,000	100,000
三井 隆吉	三井家	三井家	100,000	100,000	100,000	100,000
三井 隆吉	三井家	三井家	100,000	100,000	100,000	100,000

【第6巻】【東京】

姓 名	職 業	店 舗 所 在 地	資 本	信 用	取 引	取 引
安田 善次郎	実業家	安田家	100,000	100,000	100,000	100,000
安田 善次郎	実業家	安田家	100,000	100,000	100,000	100,000
安田 善次郎	実業家	安田家	100,000	100,000	100,000	100,000
安田 善次郎	実業家	安田家	100,000	100,000	100,000	100,000
安田 善次郎	実業家	安田家	100,000	100,000	100,000	100,000

【第6巻】【東京】

姓 名	職 業	店 舗 所 在 地	資 本	信 用	取 引	取 引
日本 勸業銀行	銀行	日本	100,000	100,000	100,000	100,000
日本 勸業銀行	銀行	日本	100,000	100,000	100,000	100,000
日本 勸業銀行	銀行	日本	100,000	100,000	100,000	100,000
日本 勸業銀行	銀行	日本	100,000	100,000	100,000	100,000
日本 勸業銀行	銀行	日本	100,000	100,000	100,000	100,000

がよめる!!
、銀行、保険会社の資産・信用情報が満載!!

【日本経済調査資料シリーズ⑧】

●明治大正期 帝國信用録 第Ⅲ期第2回配本全5巻

明治41年第1版／大正4年第8版 総約3,300頁

【第2回配本】

第6巻 第1版 明治41年 東京府下・東京府銀行・全國保險會社・神奈川縣下・大阪府下・兵庫縣下・各縣下

第7巻 第8版 大正4年 東京府下・東京府銀行・全國保險會社

第8巻 第8版 大正4年 大阪府下・大阪府銀行・京都府下・京都府銀行

第9巻 第8版 大正4年 神奈川縣下・神奈川縣銀行・兵庫縣下・兵庫縣銀行

長崎縣下・新潟長野縣下・埼玉縣下・群馬縣下・群馬縣銀行・千葉茨城縣下・栃木縣下・栃木縣銀行・奈良縣下・三重愛知縣下・静岡縣下

山梨縣下・岐阜滋賀縣下・宮城縣下・福島縣下・巖手、青森、秋田、山形縣下・福井縣下・石川縣下・富山縣下・岡山縣下・廣島縣下・廣島縣銀行・和歌山徳島縣下・福岡縣下・福岡縣銀行・佐賀大分縣下・熊本縣下・鹿児島縣下・北海道一圓・各縣下、臺灣・樺太・朝鮮・滿洲

第10巻 第8版 大正4年

底本「帝國信用録」(帝國興信所刊 第1版 明治41年4月／第8版 大正4年3月)

特色

1 明治40年初期、大正前期の商工業者、銀行、保險会社情報を網羅。

2 府県ごとの業種・規模等商工業者の営業状態や資産・信用情報が満載。

3 台湾・朝鮮・滿洲の旧植民地の商工業者も掲載。

当時の実業家・会社に関するソース・ブック。

【帝國信用録】当時日本の信用調査機関は、財界の巨頭・渋沢栄一自身が中心となっていた東京興信所(明治29年創業、「商工信用録」などを発行)と大阪にあった商業興信所(明治25年創業、「商工資産信用録」などを発行)の2社だけ。信用調査自体が世間ではほとんど認知されていなかった時代に、創業者後藤武夫は、健全な経済活動の維持に不可欠な信用調査事業を独力で起業し、明治33年、東京市京橋区南鍛冶町1番地に「帝國興信社」を設立した。経済専門誌「帝國經濟雑誌」をはじめ「帝國信用録」(明治41年初版発行)や「帝國銀行会社要録」(現・帝國データバンク会社年鑑)を刊行。大正15年には国内外の事業所網を54カ所に伸ばし、帝國興信所はついに業界No.1の地位を築き上げた。

— 帝國データバンクのホームページ、「TDB」の歴史— 等より

【第8巻】【大阪】

姓 名	職 業	店 舗 所 在 地	資 本	信 用	取 引	取 引
住友 吉左衛門	銀行役員	住友家	100,000	100,000	100,000	100,000
住友 吉左衛門	銀行役員	住友家	100,000	100,000	100,000	100,000
住友 吉左衛門	銀行役員	住友家	100,000	100,000	100,000	100,000
住友 吉左衛門	銀行役員	住友家	100,000	100,000	100,000	100,000
住友 吉左衛門	銀行役員	住友家	100,000	100,000	100,000	100,000

【第8巻】【京都】

姓 名	職 業	店 舗 所 在 地	資 本	信 用	取 引	取 引
大村 彦太郎	呉服商	大村家	100,000	100,000	100,000	100,000
大村 彦太郎	呉服商	大村家	100,000	100,000	100,000	100,000
大村 彦太郎	呉服商	大村家	100,000	100,000	100,000	100,000
大村 彦太郎	呉服商	大村家	100,000	100,000	100,000	100,000
大村 彦太郎	呉服商	大村家	100,000	100,000	100,000	100,000

【第8巻】【大阪】

姓 名	職 業	店 舗 所 在 地	資 本	信 用	取 引	取 引
廣岡 いく	銀行業	廣岡家	100,000	100,000	100,000	100,000
廣岡 いく	銀行業	廣岡家	100,000	100,000	100,000	100,000
廣岡 いく	銀行業	廣岡家	100,000	100,000	100,000	100,000
廣岡 いく	銀行業	廣岡家	100,000	100,000	100,000	100,000
廣岡 いく	銀行業	廣岡家	100,000	100,000	100,000	100,000

推薦します

『帝国信用録』の掲載項目は、地理情報としても有益

九州大学 大学院経済学研究院 准教授 鷲崎俊太郎

キャッシュレス化の進捗する現代日本で、信用取引は必要不可欠な存在だといえます。翻って商人間の信用取引の起源を考えてみるに、手形は近世の大坂や絹織物産地の桐生・足利で使用・流通していましたが、前者は小切手に近く、後者は地域内での流通に限定されました（寺西重郎[2011]『戦前期日本の金融システム』岩波書店、206-208頁）。1893年に旧商法が施行されましたが、当時の銀行営業でも抵当貸が大半を占め、信用貸はわずかでし

日本で信用調査機関が誕生したのは、ちょうどその頃です。1892年に大阪で商業興信所が、1896年に東京で東京興信所が、さらに1900年に帝国興信社（のち帝国興信所）が設立されました。3社とも会員制度を採用し、現場に赴いた担当者による報告書をもとに、個人の資産・信用を調査した「信用録」や、企業情報を収録した「会社録」を出版しました。

とくに「信用録」は、その信用情報を厳重に守るべく、正味の身代や信用の程度などを表す評価項目を符号で記載したため、会員は別紙の「符号手引」にある符号と照合しながら、その大小やランクを把握しました。また「信用録」は、会員の求めに応じて貸与され、脱会時には原則的に返却されました。それだけに、「信用録」は後世に残りがたい資料でした。

帝国興信所の信用録である『帝国信用録』は、全国の商工業者まで対象とするのみならず、調査対象の「盛衰」まで評価できている点に特徴を有します。その存在はこれまで、第2版（1909年）までしか溯及できませんでしたが、今回の第1版（1908年）とその「符号手引」の発見は、日露戦後期の信用情報を1年でも早く知るうえで、喜ばしく感じられます。

これまで「信用録」を用いた研究の舞台は、近代日本の経営史にありましたが、この機会を利用して、隣接の他分野にもその利用を推奨できれば幸いです。たとえば、歴史地理学では、商店街の空間変遷を時系列的に分析する動向が見られます。ここにおいて『帝国信用録』の掲載項目は、地理情報としても有益な一次情報をもたらします。帝国興信所の詳細な調査情報を、100年後の我々は「会員」にならずとも、利用できる機会を与えられているのです。



Crossculture
Publishing
Company Ltd

●底本で使用

【第9卷】【神奈川】

[illegible]

【第7卷】【東京】

[illegible]

- 人物から会社・産業がわかる、時代
- 明治40年初期、大正前期の商工業者

【第10卷】【福岡】

[illegible]

【第10卷】〔北海道〕

[illegible]

【第9卷】【愛知】

[illegible]